

## そうか有名なのか

田中は 僕が あまりにも 黙っているので 自信をなくして 条約破棄と おどす。

しかし、頑固として 僕は喋らない。  
しまいに、中田は、  
「二十五円 払うし、もうやめような。」  
と言う。

僕は、それでも条約遵守を主張した。  
しかし、そうはじめは、田中の提案を断っていたが、  
田中には知られていないが、僕にも弱みがあった。

一度、中間体操で学校のまわり、一周の走りで、  
中川に一番を取られ、二番になり、思わず、僕は  
「ちきしょう！」と 口に出していた。

その時は、ひとり言だったが、  
はっと まわりを きよろきよろしたが、  
皆 息を ハーハーしていて  
聞いている者は いなかった。

その弱みが 僕にもあるので承知して、  
二十五円 手に入れた。

三時三十八分のバスだったが、  
四時の急行に間に合った。

三条京阪の第三プラットホームで、  
あの子に似た女の子を見かけた。  
しかし、僕は 立ち止まらず、確認もせず、歩き続けた。